



学内広報



2001. 5. 14
東京大学広報委員会

春の紫綬褒章受賞！ 記者会見行われる



記者会見 (4ページに関連記事)

目次

一般ニュース	2
総長の海外出張	
キャンパスニュース	2
進学指導担当教官決まる	
特別記事	4
春の紫綬褒章受賞、記者会見行われる	
部局ニュース	5
社会情報研究所教育部研究生の入試行われる	
掲示板	5
春期環境整備週間決まる、国民年金の学生納付特例制度、東京大学原子炉「弥生」三十周	

年記念講演会と施設公開の案内、第2回 人工物工学コロキウム、パリ第IV大学、ピエール・ブリュネル教授講演会、日本印度学仏教学会創立50周年記念公開講演会「21世紀の仏教」[教養学部報]第447(5月2日)号の発行、第13回関連社会科学シンポジウム地域通貨の現在、保安教育『低温講習会』のお知らせ	
広報委員会	9
事務連絡(人事異動)	10
訃報(藤井清光名誉教授)	11
淡青評論	
「前期課程教育の数学にもとめられるもの」	12

≡ 一般ニュース ≡

総長の海外出張

佐々木総長は、平成13年5月16日（水）から5月20日（日）の期間、第8回東アジア研究型大学協会（AEARU）理事会出席のため中華人民共和国へ出張する。

≡ キャンパスニュース ≡

進学指導担当教官決まる

教養学部（前期課程）から専門学部へ進学しようとする学生に対し、進学に関する諸問題について個人的な指導や相談にあたる今年度の進学指導担当教官は、次のとおりである。

平成13年度進学指導担当教官名簿

平成13年4月現在

学部	進学指導担当学科	職名	氏名	連絡先（内線）
法	全 類	教授	寺尾美子	23216
医	医 学 科	教授	小林廉毅	23509
	健康科学科・看護学科	教授	北 潔	23526
工	土木工 学 科	講師	寺部慎太郎	26135
	建 築 学 科	教授	長澤 泰	26169
	都 市 工 学 科	教授	花木啓祐	26236
	機 械 工 学 科	教授	中尾政之	26360
	産 業 機 械 工 学 科			
	機 械 情 報 工 学 科	教授	中村仁彦	26379
	航 空 宇 宙 工 学 科	教授	久保田弘敏	26574
	電 気 工 学 科	助教授	古関隆章	26676
	電 子 情 報 工 学 科	助教授	相澤清晴	26651
	電 子 工 学 科	助教授	山下真司	26659
	物 理 工 学 科	教授	宮下精二	26805
	計 数 工 学 科	教授	山本博資	26930
			嵯峨山茂樹	26900
	マ テ リ ア ル 工 学 科	教授	片山一則	27138
	応 用 化 学 科	助教授	藤岡 洋	27192
	化 学 シ ス テ ム 工 学 科	助教授	堤 敦司	27270
化 学 生 命 工 学 科	助教授	石井洋一	27264	
シ ス テ ム 創 成 学 科	教授	六川修一	27039	
文	全 学 科	助教授	月本雅幸	23812
理	数 学 科	助教授	河澄響矢	(駒場)47031
	情 報 科 学 科	教授	辻井潤一	24098
	物 理 学 科	教授	和達三樹	27633
	天 文 学 科	教授	柴橋博資	24256
	地 球 惑 星 物 理 学 科	教授	松浦充宏	24318
	化 学 科	教授	梅澤喜夫	24351
	生 物 化 学 科	教授	坂野 仁	24396
	生 物 学 科 (動 物 学)	助教授	朴 民根	24437
	生 物 学 科 (植 物 学)	助教授	西田生郎	24476
	生 物 学 科 (人 類 学)	教授	青木健一	24485
	地 学 科 (地 質 学・鉱 物 学)	助教授	小暮敏博	24548
地 学 科 (地 理 学)	助教授	池田安隆	24574	

学部	進学指導担当学科	職名	氏名	連絡先(内線)
農	一類 応用生物学専修 環境生物学専修 緑地環境学専修 生産生物学専修	助教授 助教授 助教授 助教	嶋田透 堤伸浩 吉田薫 堤伸浩	28130 25073 28086 25073
	二類 生命工学専修 生命化学専修	助教授 助教	足立博之典 加藤久典	28139 25114
	三類 森林生物学専修 森林環境科学専修 森林資源科学専修	教授 助教授 教授	箕輪光博 井上真 箕輪光博	25211 25233 25211
	四類 水圏生命科学専修 水圏環境科学専修 水圏生産科学専修	教授	古谷研	25293
	五類 農業構造・経営学専修 開発政策・経済学専修	助教授 教授	小田切徳美 泉田洋一	25322 25463
	六類 地域環境工学専修 生物システム工学専修	教授	岡本嗣男	25358
	七類 生物材料住科学専修 生物材料開発化学専修	教授 助教授	小野擴邦 安藤直人	25266 27516
	八類 獣医学専修	助教授	桑原正貴	25391
	九類 国際開発農学専修	助教授	松本安喜	27503
	十類 動物生命システム科学専修	助教授	武内ゆかり	23099
経済	経済学 経営学	助教授	柳川範之	25606
教養	超域文化科学科	教授	伊藤たかね	(駒場) 46282
	地域文化研究学	教授	草光俊雄	(駒場) 46306
		助教授 助教授	安岡治子 安谷垣真理子	(駒場) 46431 (駒場) 46354
	総合社会科学科	教授	高橋直樹	(駒場) 46459
	基礎科学科	教授	遠藤泰樹	(駒場) 46748
	広域科学科	助教授	池上高志	(駒場) 46535
教授		荒井良雄	(駒場) 46255	
生命・認知科学科	教授	馬渕一誠	(駒場) 46630	
教育	総合教育科学科	助教授	志水宏吉	23993
薬	薬学	教授	柴崎正勝	24830

備考：連絡先電話番号

本郷(ダイヤルイン) 5841—(内線番号の下4ケタ)

駒場(ダイヤルイン) 5454—(内線番号の下4ケタ)

例) 内線20000の場合 → 5841—0000

≪ 特別記事 ≫

春の紫綬褒章受賞記者会見行われる

浅島 誠、戸塚洋二両教授の紫綬褒章受賞の記者会見が、4月25日に行われ、多数の記者が参加した。



▲ 4月25日に行われた記者会見

浅島誠教授が紫綬褒章受賞

本学総合文化研究科・教養学部の浅島 誠教授 (56) に平成13年度の紫綬褒章が授与されました。

浅島教授の学問上の業績は動物の卵から幼生への器官形成と形づくりに関する形成体(オーガナイザー)の研究を出発点としている。教授は、両生類の胚細胞を用いて「胚誘導と器官形成」の研究を通して動物の形づくりの仕組みの解明を長い間、行ってきた。そして、発生生物学で最も重要な課題のひとつである中胚葉誘導物質として、アクチビンAを世界で初めて同定しました。さらに、この物質を用いて、未分化細胞に血球や間充織、筋肉や脊索のみならず腎臓や心臓、消化管などいろいろな器官を14種類の器官や組織を試験管内で作りに成功した。これは世界中で最も多くの器官を試験管内で作ることを可能にしたものです。この試験管内での器官(臓器)形成に成功したことによって、今、この分野の研究は発生工学または器官形成学、再生科学として発展し急速に進んでいる。また、これらの研究を通して、形態形成における勾配の概念を証明したり、アク



▲浅島 誠教授

チビンの作用機序、臓器形成、動物の形づくりの仕組みの解明など生命科学の重要な事柄を次々と明らかにした。試験管内でつくられた種々の臓器は、正常胚の臓器や組織と同じものであることも証明された。その後、更に独自に開発した系を用いて臓器特異的遺伝子を解析しており、この方法によって臓器形成のカスケードが明らかとなり、ヒトを含めた病気の診断や治療にも研究が広がっている。

(大学院総合文化研究科 松本忠夫)

戸塚洋二教授が紫綬褒章受賞

宇宙線研究所の戸塚洋二教授が、本年度の紫綬褒章を受賞された。戸塚先生の今回の受賞は、先生の20年近い宇宙ニュートリノ研究における多大な業績と、宇宙線、および宇宙ニュートリノの研究分野の発展のために尽力された功績に対して贈られたものである。

戸塚先生は、1987年、我々の銀河の隣の大マゼラン星雲で起った超新星爆発に際し、小柴昌俊本学教授(当時)と共にカミオカンデと呼ばれた測定器をもちいてニュートリノを検出し、「ニュートリノ天文学」分野の創始に大きく貢献されました。また、カミオカンデの数十倍の性能を持ったスーパーカミオカンデ実験を実現し、その装置をもちいて、1998年、宇宙線が大気中で生成するニュートリノを観測して、ニュートリノ振動現象を観測しニュートリノにわずかな質量があるという画期的な発見をされました。さらに、30年来の大問題でありました太陽ニュートリノ欠損の問題にも、カミオカンデとスーパーカミオカンデのデータを使って詳細な研究を進められ、この問題もニュートリノ振動で説明できることを示されました。

(宇宙線研究所附属宇宙ニュートリノ観測情報融合センター 梶田 隆章)



▲戸塚洋二教授

≡ 部局ニュース ≡

社会情報研究所教育部研究生の入試行われる

社会情報研究所は、主としてジャーナリストを目指す学生に専門教育（修業年限2年）を行う教育部を設けているが、その平成13年度教育部研究生の選考試験が4月13日（金）と20日（金）の2日にわたって実施された。

その結果、89名の志願者のうちから51名の合格者を決定した。

合格者の内訳は本学在学・卒業者29名、他大学在学・卒業者22名であり、男子35名、女子16名となっている。

なお、4月23日（月）に入学者ガイダンスが行われ、授業が開始された。

（社会情報研究所）

≡ 掲示板 ≡

春期環境整備週間決まる

— 5月24日～5月30日 —

春期環境整備週を5月24日（木）から30日（水）までの1週間とすることが決定されました。

校内の環境整備については、日頃から各部局ごとに構内美化に努められているところですが、本週間は、大学にふさわしい環境の整備の一層の推進を図るため、特に春秋2回、日時、作業内容、区域を設定して実施するものです。

各部局はそれぞれの部局の周辺を、また、事務局は事務局庁舎、大講堂、三四郎池、七徳堂、懐徳館等の周辺を清掃しますが、本週間の趣旨を理解の上、ご協力願います。

国民年金の学生納付特例制度

学生の方は、国民年金の保険料を納めることが猶予される制度（学生納付特例制度）が平成12年4月からスタートしました。学生の方はほとんどの場合、所得がありませんので、国民年金の保険料を本人が納めることが困難ですから、社会人になってから保険料を納めることとした制度です。

この制度を詳しく説明しますと、

○対象者は？

20歳以上の大学（大学院）、短大、高等専門学校、専修学校、各種学校その他の教育施設の一部に在学する学生等（それぞれ夜間、通信教育の課程を除く。）であって、学生本人の前年の所得が68万円以下である方です。

○届出の方法は

お住まいの市区町村の国民年金担当窓口または社会保険事務所に「国民年金保険料学生納付特例申請書」が備え付けてありますので、必要事項等を記入の上、お住まいの市区町村の国民年金担当窓口まで届出てください。

なお、届出は前年の所得を確認する必要があることから毎年度必要となります。

○届出して承認を受けたら？

(1)学生納付特例期間中の障害や死亡といった不慮の事態には、満額の障害基礎年金または遺族基礎年金が支給されます。

(2)学生納付特例期間は、老齢基礎年金の受給資格要件には算入されますが、年金額には、反映されません。満額の老齢基礎年金を受けるためにも、保険料をさかのぼって納めること（追納）をおすすめします。学生納付特例期間については、10年以内であれば保険料を追納することができます。卒業したら、忘れずに追納してください。

○もし、届出が遅れたら…？

学生納付特例制度は、申請のあった月の前月から承認することとなっています。

承認される前の期間は、保険料を納めなければ未納期間となり、その間に万が一の事故で障害が残っても障害基礎年金は支給されません。

ですから、4月から翌年3月まで承認を受けようとする方は、毎年5月末までに届出ることが必要です。お忘れのないようご注意ください。

厚生労働省ホームページ(<http://www.mhlw.go.jp/>)
社会保険庁ホームページ(<http://www.sia.go.jp/>)

（学生部）

東京大学原子炉「弥生」三十周年記念講演会と施設公開の案内

日時：平成13年6月8日（金） 13時30分～17時00分

場所：東京大学大学院工学系研究科

附属原子力工学研究施設

（〒319-1188

茨城県那珂郡東海村白方白根2-22）

本研究施設の研究用原子炉「弥生」は、初臨界（昭和46年4月10日）以来満30年を迎え、この間に様々な研究分野において多くの成果を挙げるとともに、研究者の育成並びに学生の教育実習に供せられてきました。また利用者は、東京大学のみならず、広く国内の研究者にわたっております。この機会に、記念行事および施設公開を行うことと致しましたのでご案内申し上げます。

プログラム：

●講演会（13時30分～15時30分）

- 1) 施設長挨拶
工学系研究科長・施設長 小宮山 宏
- 2) 来賓挨拶
- 3) 講演「先進ビームが彩る将来」
原子力工学研究施設 上坂 充
- 4) 講演「コンピュータシミュレーションが作り出す未来」
原子力工学研究施設 越塚 誠一

●施設公開（13時30分～16時30分）

主要な実験設備研究発表

参加登録：事前の下記問い合わせ先まで住所、氏名、連絡先をご連絡下さい。

お問い合わせ先：

東京大学大学院工学系研究科
附属原子力工学研究施設 越塚誠一

TEL： 029-287-8441, FAX：029-287-8488

e-mail： koshi@tokai.t.u-tokyo.ac.jp

ホームページ：

<http://www.tokai.t.u-tokyo.ac.jp/yayoi30/>

第2回 人工物工学コロキウム

2nd RACE Colloquium

「デジタル価値工学を目指して—コンテンツのカスタム化」

日時：6月26日（火）

場所：東京大学先端科学技術研究センター講堂
（新4号館）

主催：東京大学人工物工学研究センター

後援：東京大学先端経済工学研究センター

開催主旨

第2回人工物工学コロキウムでは、デジタル価値工学を取り上げます。現在、情報をデジタル化し、デジタルコンテンツとして蓄積、利用することが一般化しています。そこでは、デジタルコンテンツを生成することにとりあえぬ関心が集まり、人間は可能になったコンテンツに受け身な形で接近する存在となっています。コンテンツを一律な形で顔が見えない個人に発信しても、それはたちまちコモディティ化し、コンテンツはその場で消費されて、持続的な価値は生じません。

コンテンツに価値を発見するのは、他ならぬコンテンツを利用する人間です。デジタルコンテンツに込められたメッセージの伝達においては、異なった顔を持つ人間にそれぞれ、カスタム化されたコンテンツを提供することによって初めて、そのコンテンツの価値を100パーセント引き出す可能性が出てくるのです。

情報技術が広く普及しつつある現在、発想支援、アブダクションの解明のように、専門家を対象とする開発支

援の研究では十分とはいえません。デジタルコンテンツの価値に踏み込むならば、視点をコンテンツ中心から、利用者としての人間中心へ転換することが必要です。そこでターゲットとなるのは、社会の多数を占める顔の見える人間であり、IT研究の課題は、いかにコンテンツを多様な個人にカスタム化して提供し、コストを節約しながら、伝達メッセージから最大の価値を創造するか、に移ることになります。工学への期待としても、コンテンツからの価値の創造をどのように支援するかを理論的に解明し、それを実証することが求められています。

「デジタル価値工学」は、情報技術を利用して、社会の多数派である利用者に対してカスタム化されたコンテンツを提供し、現実的なコスト負担で人間の知的活動を効果的に支援し、コンテンツの価値実現を目的とする工学です。本コロキウムでは、デジタルコンテンツの本質から、デジタル知識処理やラーニング技術など、デジタル価値工学に関係する研究課題に幅広い視点から焦点をあて、研究活動の意味とその可能性について真剣な議論を予定しています。産・学・官からの積極的なご参加をお待ちします。

プログラム

- 13時00分 開会の挨拶
新井民夫
（東京大学人工物工学研究センター長）
- 13時10分 特別講演 「ITとラーニング」
今井賢一
（スタンフォード日本センター理事長）
- 14時10分 eラーニングの限界と可能性
馬場靖憲
（東京大学人工物工学研究センター教授）
- 14時40分～15時00分 休憩
- 15時00分 学習コンテンツの将来
岡本 薫（文化庁著作権課長）
- 15時30分 ラーニングコンテンツの開発プロセス
桑原知之（ネットスクール）
- 16時00分 デジタル知識のマネジメント
武田英明（国立情報学研究所助教授）
- 16時30分 デジタル価値工学の提案
増田 宏
（東京大学人工物工学研究センター助教授）
- 17時00分 パネル討論「デジタルコンテンツの将来」

パネリスト

- 岩田修一（東京大学人工物工学研究センター教授）
馬場靖憲（東京大学人工物工学研究センター教授）
岡本 薫（文化庁著作権課長）
武田英明（国立情報学研究所助教授）
増田 宏（東京大学人工物工学研究センター助教授）
河口洋一郎（東京大学大学院情報学環教授）

司会

- 児玉文雄（東京大学先端経済工学研究センター長）

コロキウム参加費：無料

資料：当日使用のOHP等のコピーを配布します。

参加申し込み・問い合わせ先

東京大学人工物工学研究センター内

第2回人工物工学コロキウム事務局

〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1

Fax：03-3467-0648

E-mail：race-colloquium@race.u-tokyo.ac.jp

参加ご希望の方は、お名前・ご所属・ご連絡先（住所、電話、Fax、電子メール等）を明記し、6月15日（金）迄に、上記までお申し込み下さい。先着120名様に限りさせていただきます。

開催場所は、東京大学駒場第二キャンパスです。地図は<http://www.race.u-tokyo.ac.jp>に掲載されています。

担当者：中地義和教授

日本印度学仏教学会創立50周年記念公開講演会「21世紀の仏教」

新しい世紀を迎え、仏教はこれからどうあるべきかという問題意識に立ち、「21世紀の仏教」というビジョンのもとで、学会創立50周年を記念して記念講演会を開催します。お誘い合わせのうえ、ご参加下さい。

日時：6月29日（金）17時30～20時（開場17時）

場所：東京大学・大講堂

講師：高崎直道（鶴見大学学長・東京大学名誉教授）

「これからの仏教学」

上山春平（京都大学名誉教授）「古典と文明」

（人文社会科学系研究科）

パリ第IV大学（ソルボンヌ）、ピエール・ブリュネル（Pierre BRUNEL）教授講演会

題目：Rimbaud et Laforgue（ランボーとラフォルグ）

内容：日本近代文学にも重要な影響を及ぼしたフランス十九世紀の二人の詩人を、前者から後者への感化、詩的感性の際立った対照、「自由詩」というジャンルの形成、といった観点から比較しながら、それぞれの魅力を説き明かす。

日時：6月5日（火）、17時、法文1号館315番教室

使用言語：フランス語（通訳なし）

Monsieur Pierre BRUNEL

Professeur à l'Université Paris IV - Sorbonne,
donnera une conférence intitulée :

Rimbaud et Laforgue

le mardi 5 juin 2001,
à l'Université de Tokyo (Hongo),
Faculté des lettres, Bâtiment 1, Salle 315,
à 17 heures.

entrée libre, sans traduction

Nous serions heureux de votre présence.

このたびパリ第4大学（ソルボンヌ）のピエール・ブリュネル教授が、フランス政府派遣使節として来日されることになりました。同教授は、クローデル、ランボー、神話批評、ベルリニをはじめとして、フランス文学、比較文学、音楽学の分野で多岐にわたる業績をあげられています。今回の来日は1987年、1991年に続いて3度目となります。6月2、3の両日に開催される日本フランス語フランス文学会の開会講演（Où va la littérature française aujourd'hui?）、6月2日、13時40分～14時40分、上智大学10号館講堂）のほか、東京大学文学部でもこの機会に、上記のように〈ランボーとラフォルグ〉と題する講演を催すことになりました。ふるってご来場くださいますよう。

Renseignements : Département de littérature française (東京大学文学部仏文科)
Tél. 03.5481.3842

入場無料

問合せ先：人文社会科学系研究科仏文科03-5841-3842

「教養学部報」第447（5月2日）号の発行 ——教官による、学生のための学内新聞——

〈学生相談所協力教官制度ができました——大学生生活で困ったら——〉

繁榊算男：学生相談所利用のすすめ

——良い相談相手——

丹野義彦：学生相談所協力教官とは何か？

大森拓哉：学生相談所ではどんな相談を受け付けるか

教官紹介：国際社会科学専攻/生命環境科学系/関連基礎科学系/広域システム科学系/数学/外国人教員、他

〈後期課程案内〉

伊藤亞人：超域文化科学科

黒住 真：地域文化研究学科

トボスをめぐる文化研究とは

高橋直樹：総合社会科学科

新しい社会科学をめざして

氷上 忍：基礎科学科

バイオとナノサイエンスの基礎科学科

川合 慧：広域科学科 学際性と総合性の追求

林 利彦：生命・認知科学科 ヒトゲノムの解明をヒューマンバイオロジーへ生かすには？

今橋映子・竹内信夫：金素雲記念国際シンポジウム「東アジア随筆文学の伝統」そして沢知恵ライブコンサート・イン・駒場

〈本の棚〉

廣野喜幸：L・ライデスドルフ、藤垣裕子・林隆之・富沢宏之・平川秀幸・調麻佐志・牧野淳一郎 訳

『科学計量学の挑戦——コミュニケーションの自己組織化』 意欲的な挑戦、だが再挑戦を

〈時に沿って〉
田原史起：語学奮戦記

連絡先：低温センター技官室（内線22853）

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、図書館入口、学生課ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

（大学院総合文化研究科・教養学部）

第13回関連社会科学シンポジウム 地域通貨の現在

——〈貨幣論〉との対話——

パネリスト

岩井克人 貨幣論と贈与論

（東京大学大学院経済学研究科教授）

ヘロン久保田雅子 タイムダラーの実践

（タイムダラー・ネットワーク・ジャパン代表理事）

森野栄一 地域通貨の拓く地域社会像

（経済評論家）

丸山真人 地域通貨と広義の経済学

（東京大学大学院総合文化研究科教授）

日 時：6月2日（土）13時～16時30分

場 所：東京大学教養学部13号館1323教室

主 催：東京大学教養学部関連社会科学分科

東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻

TEL：03-5454-6136

e-mail：shakai@waka.c.u-tokyo.ac.jp

保安教育『低温講習会』のお知らせ

液体窒素・液体ヘリウム利用者を対象にした講習会を下記の要領にて開催いたします。この講習会は高圧ガス保安法で義務づけられている保安教育の一環として行うものです。対象者は、主として今年度入学の修士課程一年生等新たに寒剤を利用し始める学生及び教職員です。研究室の該当者は、必ず出席するようにお願いいたします。

なお申し込み用紙は別途お送りしますので、各研究室の出席者をとりまとめの上、5月18日（金）までに低温センター技官室宛に返送してください。該当者のいない場合にもその旨お知らせください。

日 時：5月25日（金）15時00分～17時00分

場 所：理学部化学本館5階講堂

講習内容：○高圧ガス保安法の概要

○高圧ガス容器の取り扱い方

○液体窒素・液体ヘリウムの特性と取り扱い方

○実際の利用手続き、事故例の紹介

○共同利用装置について

<広報委員会>

『学内広報』掲載写真の公募

次の要領で、「学内広報」に掲載する写真とその内容の紹介文を、広く本学関係者から募集します。

- | | |
|---|--|
| <p>1. 内 容：東京大学に関するものなら内容は特に問いません。学内点描でも、一般の学内の人達になじみのうすい乗鞍や北海道などの各種施設の状態でも、観測船やスーパーカミオカンデなどの各種設備の概観でも、電子顕微鏡や高速瞬間写真などによる珍しい現象でも、なんでも結構です。</p> <p>2. 形 式：特に問いません。</p> | <p>3. 説明文：500字程度の写真内容を説明する文章をつけ、所属・氏名を明記してください。</p> <p>4. 締 切：特に設けません。臨時。</p> <p>5. 掲 載：原則として、表紙に掲載します。</p> <p>6. 送り先：〒113-8654 文京区本郷7-3-1
事務局総務課広報室
(内線82032)</p> |
|---|--|

投書欄「噴水」にご意見を!!

「学内広報」には、皆様から投書を寄せていただく欄として、「噴水」が設けられています。この欄への投書要領は、次のとおりです。

- 1 本学における教育・研究活動に関する建設的な意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

送り先 〒113-8654 文京区本郷7-3-1
事務局総務課広報室 (内線82032)

≡ 事務連絡 ≡

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
(教官)		(採 用)	
13. 5. 1	小 野 謙 二	大学院工学系研究科助教授	日産自動車総合研究所車両交通研究所技師
〃	工 藤 久 明	大学院工学系研究科附属原子力工学研究施設助教授	日本原子力研究所副主任研究員
		(昇 任)	
13. 4. 16	蓑 輪 眞	大学院理学系研究科教授	大学院理学系研究科助教授
〃	島 田 敏 宏	大学院理学系研究科助教授	大学院理学系研究科講師
〃	紫 藤 貴 文	大学院理学系研究科助教授	大学院理学系研究科講師
13. 5. 1	平 川 一 彦	生産技術研究所教授	生産技術研究所助教授
		(配 置 換)	
13. 4. 16	白 木 靖 寛	大学院工学系研究科附属量子相エレクトロニクス研究センター教授	大学院工学系研究科物理工学専攻物理工学講座半導体工学領域教授
13. 5. 1	瀬 崎 薫	空間情報科学研究センター助教授	生産技術研究所附属概念情報工学研究センター助教授
		(転 任)	
13. 5. 1	柿 崎 明 人	物性研究所附属軌道放射物性研究施設教授	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所物質科学第一研究系教授
		(併 任)	
13. 4. 16	宮 野 健次郎	大学院工学系研究科附属量子相エレクトロニクス研究センター教授	先端科学技術研究センター教授
〃	佐々木 誠	大学院理学系研究科助教授	東北大学大学院生命科学系研究科助教授
〃	藤 井 真理子	先端科学技術研究センター教授	先端経済工学研究センター教授
13. 5. 1	Duncan Alexander Vaughan	大学院農学生命科学研究科教授	独立行政法人農業生物資源研究所遺伝資源研究グループ集団動態研究チーム長
〃	深 尾 京 司	社会科学研究所教授	一橋大学経済研究所教授
〃	柿 崎 明 人	物性研究所附属軌道放射物性研究施設長	物性研究所附属軌道放射物性研究施設教授
〃	揖 斐 敏 夫	国際・産学共同研究センター教授	経済産業省大臣官房技術総括審議官
		(免)	
13. 5. 1	福 山 秀 敏	物性研究所附属軌道放射物性研究施設長事務取扱	物性研究所教授
		(復 帰)	
13. 4. 20	河 合 正 弘	社会科学研究所教授	世界銀行 (ワシントンD.C.)
(職員)			
13. 5. 1	三 浦 孝 樹	大学院理学系研究科附属植物園(事務主任)	理学系研究科等経理掛長
〃	植 田 清 実	理学系研究科等経理掛長	大学院理学系研究科附属植物園事務室主任

≡ 訃 報 ≡

藤井 清光 名誉教授

本学名誉教授藤井清光先生は、4月1日（日）、呼吸不全のため83歳で逝去されました。謹んで哀悼の意を捧げます。



先生は、大正6年に神奈川県横浜市でお生まれになり、昭和15年東京帝国大学工学部鉱山及冶金学科鉱山専修（現在のシステム創成学科）を卒業後、日本石油株式会社に入社されて石油開発技術者としての道を歩み、昭和17年には海軍技術大尉として海軍燃料廠タラカン支廠に赴任され、南方油田の開発に従事されました。その後、昭和19年東京帝国大学第一工学部助教授に任ぜられました。昭和35年には東京大学教授に昇任され、爾来、昭和53年本学を退官されるまで長年にわたり、石油開発工学を主な教育研究分野とされました。先生は、その深遠な学識と高潔な人格をもって後進の教育と指導に力を尽くしてこられる一方、東京大学百年史編さん工学部準備委員会委員、大学紛争時代の資源開発工学科学科主任を務めるなど学内行政面での貢献をされました。また、石油技術協会会長、第8

回および第9回世界石油会議の国内委員会技術委員、通産省（現在の経済産業省）石油審議会開発部会会長を務められるなど、学協会の運営とわが国の科学技術行政の遂行に幅広く貢献されました。

先生は、後進の指導・教育に専念されるとともに、自らも石油開発工学を中心とする専門分野において顕著な研究業績を収められました。すなわち、地下数千メートルの坑井掘削を行うための掘削流体の実用化、掘削流体の土木建築基礎設計への応用、油ガス田の合理的な開発技術の確立などに貢献されたばかりでなく、海洋開発工学においては、わが国の海洋掘削装置の建造と運営にその第1号から技術の指導にあたり、当該技術分野の確立に努力されました。このような功績が高く評価され、平成2年に勲三等旭日中綬章を受けられました。

これからも高い見地から指導をいただきたいと思っておりましたところ、突然の訃報に接し痛惜の念に耐えられません。先生のご功績とご人徳と偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（大学院工学系研究科・工学部）

前期課程教育の数学にもとめられるもの

一世代前の前期課程数学の講義は、教官が論理的に必要なことを過不足なく、整然と語り続けていくといったスタイルのものが多かった。余分な説明は、かえって学生の想像力を削ぐものであると考えられていた。当時は、数学を学んでいくひとつの「型」のようなものがあり、理系の学生なら当然これは読破しておかなければならないといった、いくつかの古典的な教科書があった。これは、ある程度専門的な勉強に進んでからでも同様で、専門家にいたるまでの道に、それほど多くの選択の余地はなかったように思う。

この数年、このようなスタイルの講義が従来のように機能しなくなりつつある。これには、さまざまな要因が考えられるが、上に述べたような「型」が急速に崩れつつあることがひとつの原因であると思う。多くの学生が、理論の深い意味を自問することなく、手軽な勉強の方向に流されてしまう。もちろん、今でも数学にきわめて高い興味を示す少数の学生はいて、全学ゼミを通して教官と直接接触したり、数理科学



研究科の公開セミナーに出入りしたりしている。しかし、能力のある多くの学生が数学で切磋琢磨する機会もなく前期課程を終えてしまっているのは非常に残念である。

このような傾向は、学生の志向の問題であるが、学問をめぐる環境そのものに由来する側面もある。数学はこの数年、他の分野との関わりが飛躍的に増大し、学問的にも大きな広がりを見せている。大学初年級の数学であっても、その位置付けを鳥瞰する全体像を描くことは、困難になっている。以前

は、さまざまな分野のつながりは自分で悟るものであるといった教え方がされていたと思うが、学ぶ「型」が失われている現在、全体像を自ら紡ぎ出すことは、多くの学生にとって難しい作業である。学生に適切な動機付けを与えるためには、前期課程の数学を学部教育、大学院教育への流れの中でデザインし、教官自ら学問のビジョンを提示することが必要になるであろう。数学は、知識と技術の集積ではなく、他の知的活動と同じように、「行為」である。このような「行為」としての数学を学生と対峙する中でいかに伝えていくかが問われていると思う。

(大学院数理科学研究科 河野俊丈)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

[次号の原稿締切]

5月16日(水)午後5時

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No 1214

2001年5月14日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>